

女性をもっと議会に！

女たちが変える21世紀
—ノルウェーの女性は今—

日時 1999年5月9日(日)

シンポジウム 13:00~16:00 九州厚生年金会館

交流会 16:10~17:00 北九州市立女性センター

主催 ノルウェー王国大使館、北九州市立女性センター





現在ばってんうーまんの会では「政策決定の場に女性を」という目的で、女性議員をふやそうとする活動に取り組んでいます。そのための学習ということで会員3人前記の会に参加しました。

会の前半は、ノルウェーの国会議員でかつ左派社会党党首でもあるクリスティン・ハルヴォルセンさん(38歳)の講演が行われました。彼女は快活で力強く、とても魅力的な女性でした。まずノルウェーにおける女性の政治進出についての話がありました。現在国会議員の36%が女性、議長も女性、また19名の閣僚のうち8名が女性。1981年には初の女性首相が誕生、大蔵、外務大臣にはまだなっていないが、数週間前に女性が防衛大臣になった。地方でも女性の進出は市議会で33%、県議会で41%、だから当然議員にも産休がある。自分自身も第2子を出産したときは8月の有給休暇を取り、その間は代理議員が仕事をした。

このようなノルウェーでも1971年以前は女性の国会議員も9%と少なく(えっ?日本では今でも衆議院で4.8%なのに...)、人口の半分をしめる女性の意見が政治に反映されないのはおかしいと多くの女性たちが結束して、各政党の候補者名簿の中から男性候補者の名前を消去し、女性の名前を書き入れた(ノルウェーの選挙制度は全て比例代表制でしかも選挙民が候補者の名前を書き換えることができる)。その結果多くの地区で女性議員が飛躍的に増加し、一挙に14%に跳ね上がった。この1971年のできごとは「女のクーデタ」といわれた。それ以来各政党も候補者リストを男女交互にしたりして、女性議員は増え続けた。

女性が政策決定の場に多く参加することで、今まで政治問題になりにくかった育児や介護の問題に男性も直面せざるを得なくなった。たとえば保育園の拡充や学童保育が実現し、育児休暇も80%の有給で職場復帰も保障された。また育休のうち4週間は父親が取らなければならないという「パパ・クォータ」制が導入された。ノルウェーの父親の7割がこの制度を利用しているという。

このように女性の政治進出はめざましいものの、すべての分野において男女間の平等が実現しているわけではない。依然として女性はパート労働が多く、管理職の割合も民間企業では7.5%に過ぎない。女性がキャリアを重ねていこうとするには家事や育児の負担がやはり

大きい。男女ともに労働時間短縮を求めなければならない。男女平等政策は続けることが大事。最近男性の意識も変わってきた。銀行の頭取が子どもの迎えのために会議を早く切り上げたり、大蔵大臣が「パパ・クォータ」を取得したりしている。出生率も近年増加の傾向にある。



日本では歴史や事情が違うのでノルウェーと単純に比較はできないが、高齢化・少子化問題は共通しているし、解決するためにはやはり女性の知恵や力がある。だからこそ女性が政策決定の場に出る必要がある。貰にもどつても何の解決にもならない。

以上のようなクリスティンさんの話は、なかなか女性の議員や閣僚が増えない日本の状況にはがゆい思いをしている私たちにとってはとてもうらやましい反面、女たちが団結すれば打開の道は開けるという確信を与えてくれました。

講演の後、クリスティンさんをまじえて、ジャーナリストの下村満子さん、女性政策研究家三井マリ子さんなどによるパネルディスカッションが行われました。「なぜ女性が政策決定の場に参加することが大事か」というテーマに対して、下村さんが「女と男の関係が変化している今日、女も人間であり、人生の選択ができる自由や幸せになる権利がある。女の生活経験に基づいて女にとって幸せな社会を考えていくために私たちは議会の場で声を上げなければならない。」と話したことが印象に残りました。確かに高齢・少子化や環境などの今日的課題に女性の考えが不可欠であることは間違いありませんが、それだけの理由で女性を議会にというのは少し狭い見方ではないかと思います。この世の中女半分男半分いるのですから、どのような分野にも女半分男半分いていいのに現実はそうになっていません。特に何かを決定する分野、例えば政策や方針などを決定する分野にあまりにも女性が少なすぎます。これを是正していかなければ、いつまでも私たちの自由や幸せは実現しない。つまり女性議員を増やすということは女性の人権の問題なのだと女たちは気づいたのです。このことが今回の地方選にもあられた女性議員の増加という全国的なうねりになったのではないのでしょうか。ぜひ多くの女性を議会に送り出しましょう!



長崎の元気な女たち。BPW、ながさき女の会、ばっぴんうーちの会、それに個人参加の女たちが、いよいよ始めます!!

4月の統一地方選では、女性の政治参画をめざす動きが各地で活発に繰り広げられ、その結果、過去最多の女性地方議員が誕生しました。今回の選挙は、かつての「マドンナ時代」とは違い、地域の運動を通して女性達が女性を担ぎ上げて選挙活動をするケースが目立ったのが特徴でした。それでも、女性議員の数はやっと全体の7%になったに過ぎません。

21世紀を前に、いろいろな分野でこれまでの常識が崩れ、新しい価値観が形成され、社会システムが変わろうとしています。確実に少子化社会、高齢化社会を迎える時代には、女と男の関係においても、かつての役割分担から大きく変化せざるを得ず、女性の労働力は基幹産業を支える力として、大きく期待されています。

男女共同参画社会の実現には「女性の人材が育つこと」「人材が羽ばたける社会環境をつくること」が大切で、これをめきにしては21世紀の社会システムは作れないと考えます。

それには、女性の政治参画を目指す具体的な活動の場を生み出すことが必要です。

私たちは、無党派の女性系議員を次期県議選で当選させることを当面の目的として、「女性議員をふやそう・ながさき」を設立しました。

長崎で、私たち女性が求め誕生させたいのは「政党の意見や方針に左右されることなく、女性の代表として政治の場で活動する人」です。

この目的に賛同し、行動してくれるより多くの会員を求め、さまざまな事業を行っていきます。

下記の通り、同会の発会式を開催します。ぜひ、ご参加ください。

『女性議員をふやそう・ながさき』 発会式のご案内



<日時> 1999年 **6月5日(土)** 午後1時30分～3時30分

<場所> 市民会館 1階 大会議室

<内容>

1. 本会発足について

2. 講演「山口の女たちはどう戦ったか？」

(多くの女性議員を誕生させた山口県の女性
市民活動の選挙戦を振り返って)

講演者：小柴 久子さん

(元久保田后子後援会事務長)

3. 意見交換

見どころプロフィール
久保田后子氏は、長崎県で、グリーンコープを立ち上げた経営者や、議員を務める。また、山口県で、山口県議会に、山口県議会議員として、女性議員の活躍の場を広げるに当たり、女性たちを中心とした「女性議員をふやそう」の設立メンバーとなる。
久保田后子氏は、山口県で「まちづくり市民会」を設立し、久保田后子氏を事務長に選出された。久保田后子氏は、トップ女性議員、久保田后子氏の政治活動について、久保田后子氏にインタビューした。
久保田后子氏は、山口県で「女性議員をふやそう」の設立メンバーとして、久保田后子氏の政治活動について、久保田后子氏にインタビューした。

問合せ先(事務局)：

(池田)